

2018年2月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 2月は、「道北地域の景気は、持ち直している」としました。昨年7月の判断ワンランク切上げ以降、変更ありません。
- ただし、足許の景気は持ち直してはいるものの、やや弱めの動きもみられています。大型店の売上が依然冴えないことに加え、住宅投資も一服気味です。これまで災害復旧工事などにより増加していた公共工事も、前年に比べると引続き増加していますが、一巡しつつある感じが出てきています。今回は判断の変更はしませんでした。この先はこうした動きに留意していく必要があると思います。

■個人消費の動向

- 1月の大型店売上高は、前年を下回る実績でした。昨年1月と比較すると、土日祝の数は同じで雪の日の数も同じくらいだったので、カレンダー要因や天候要因で左右された面は少なかったと思います。5か月連続の前年割れで、しかも1月の前年比▲3.0%という数字は、特殊要因があまり考えられない中では弱めの数字と言わざるを得ないと思います。野菜の価格高騰や灯油価格の上昇が家計を圧迫し、消費者の財布の紐を締めているとの指摘も聞かれます。今後の景気動向を展望するうえで、やや気掛かりな要素です。
- 1月の新車登録台数は、小幅ながら前年比マイナスでした。昨年夏までは大きく伸びていたのですが、9月以降はプラスの月とマイナスの月が交互となっています。除く軽自動車と軽自動車に分けてみますと、軽自動車が10か月連続の増加となり、1月も大幅増加となったのに対し、除く軽自動車は3か月連続で前年割れでした。もっとも、これまでの好調な動きが変わったとみる向きは今のところ少なく、年明け後の受注は商用車（企業の設備投資に

該当)も含め順調との声も聞かれています。基調に変化があるのか否かは、もう少し様子を見たいと思います。

■観光の動向

- 観光は、弱めの指標も見られていますが、年明け後も持ち直し傾向を維持しているとみています。
- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、1月も前年を上回り、9か月連続の増加となりました。旭川空港は、国際線は乗り入れ便の減少から大幅マイナスとなっていますが、国内線は引続き伸びています（前年比+7.2%）、他の空港は、紋別空港は前年割れでしたが、女満別空港と稚内空港は前年を上回っています。
- ホテル・旅館宿泊者数は、12月に4か月ぶりに前年を上回った後、1月は再び前年を下回りました。一方、旭川市内のホテルの客室稼働率は、4か月連続で前年水準を上回っています。
- 各地観光施設の入込は、旭山動物園、層雲峡地区、ウトロ温泉が減少、博物館網走監獄が増加と区々の結果となりました。

■公共投資の動向

- 1月の上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局における公共工事請負金額は、季節的にボリュームは少ないですが、前年を大幅に下回りました。もっとも、年度初来の累計では引続き前年を上回っています。
- 建設業者の間では、これまで工事需要を引張っていた災害復旧工事の発注がほぼ一巡しつつあり、先行きの工事量の減少を心配する声が聞かれ始めています。

■住宅着工

- 12月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家とも前年を下回りました。いずれも3か月連続の前年割れです。この結果、全体でも前年を下回りました。住宅着工の統計は、月々の振れが大きいのですが、最近の前年比2ケタのマイナスとなる月もあり、やや頭打ちとなってきている感があります。

■住宅以外の建築物

- このところ高い伸びを続けている建築物着工床面積（非居住用）は、12月は前年比大幅マイナスでした。ただし、季節的には着工は少ない時期です。月々の振れが大きいですし、12月の旭川市内の数字は大幅プラスですので、これまでの堅調な傾向に変化があるのかは、もう少し見極める必要があると思います。

■雇用

- 雇用状況を示す指標は、引き続き引き締まった状況にあることを示しています。12月の有効求人倍率は、旭川、稚内、北見、網走のいずれにおいても1倍を超えました。新規求人数も、すべての地区で前年を上回り、全体では10か月連続の増加となりました。

■今後のポイント

- 今回、日銀札幌支店では、これまで「回復している」としていた道内の景気判断を「緩やかに回復している」にワンランク下方修正しました。主な要因は、災害復旧工事が一巡しつつあることと個人消費の一部に弱めの動きがみられることです。また、道東3振興局（釧路、十勝、根室）をカバーする日銀釧路支店も、景気判断をワンランク切り下げています。主な要因は公共投資が減少に転じていることです。
- 道北地域でも、災害復旧工事を中心とする公共工事の発注が一巡しつつある点は同様ですし、個人消費も弱めになっていますので、微妙な状況にあると考えています。建設業者に伺うと、「現状は十分に仕事を確保していて繁忙な状況にある」とする先が引き続き多いのですが、「先行きはこのままだと細ってしまうのではないかと心配している」といった声が聞かれるのも事実です。今後、こうした公共工事の一巡が建設会社の仕事量や景況感にどのように影響し、さらにそこから波及する建設資材、運輸などの業種にどのよう

に影響するかを注視していきたいと思います。また、弱めの動きとなっている大型店の売上や住宅着工の動向にも着目していく必要があると考えています。

以 上